

創造表現コース 舞台表現Ⅱ「動き」

10月の成果発表会で公演予定の「女クラ!」の稽古を進める創造表現コース3年生一同。今回は「4月。3年A組は女クラだった。」の稽古です。自分達のクラスだけ男子がないことにショックを受けたA組生徒の掃除のシーン。男子がないことや担任の先生に関する嘆きもありながら、案外楽しいかもしれないと自らを言い聞かせて1年間への意気込みを入れる女子達でしたが・・・、という展開。

私はこのシーンに出演しないため、観客として稽古の様子を見ていました。その中で私が注目したのは「動き」でした。例えば、机の上に座って友達と楽しく話しているシーンを想像してみてください。本当はやってはいけない事ですが、これ、実際にやったことや見たことがありますよね。一方で、いきなり机を叩いて泣き出すシーンを想像してみてください。あなたのお友達でこんなことをする人、見たことがありますか？マンガやアニメで見る方が多いのではないのでしょうか。

でも、演劇ではその両方、つまりは現実的な動きと非現実的な動きを融合して使うことが出来ます。これを有効的に活用する事で、観客の視線を特定の人物に誘導したり、リアルな女子高生を表現したりする事ができます。今回のこのシーンでは特にこの「動き」に関して品川浩幸先生はアドバイスを入れてくださいました。その助言をもとに、一つ一つ丁寧に表現していく女クラの生徒たち。今回も無事、一つの良いシーンが出来あがりました。

さて、次回は「7月 女クラの球技大会」に取り組んでいきます。女クラならではのイザコザや、女クラだからこそ見せることのできる立ち直り方。これを彼女たちはどのように魅せてくれるのでしょうか。

(文 3年 T. R)

